

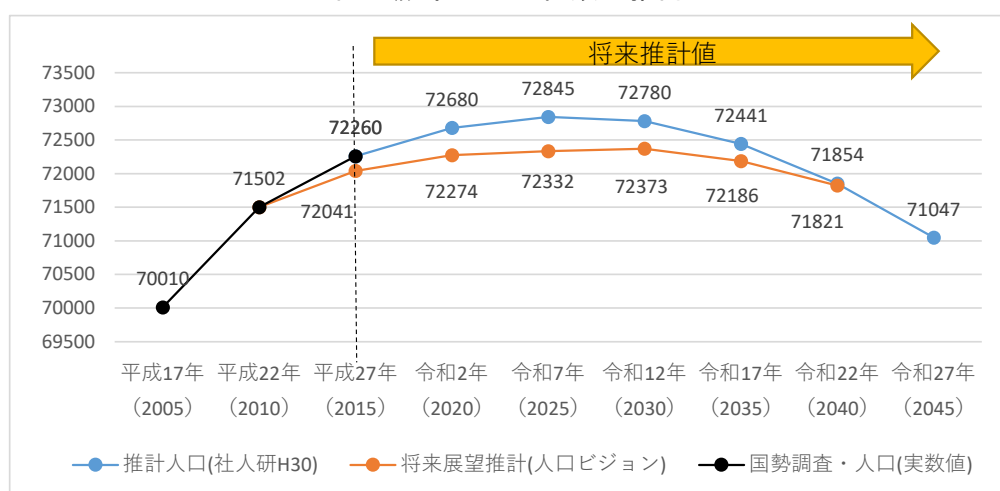
第2章 人口の将来見通し

1. 人口推計

本市の将来人口は、「日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）」の将来推計人口によると、令和7年（2025年）には人口のピークを迎え、その後、減少していくと推計されています。

また、年齢3区分別に将来推計人口をみると、年少人口（0～14歳）の割合は緩やかに減少し、老年人口（65歳以上）の割合は増加すると推計されており、本市においても、人口減少・少子高齢化が進行すると考えられます。

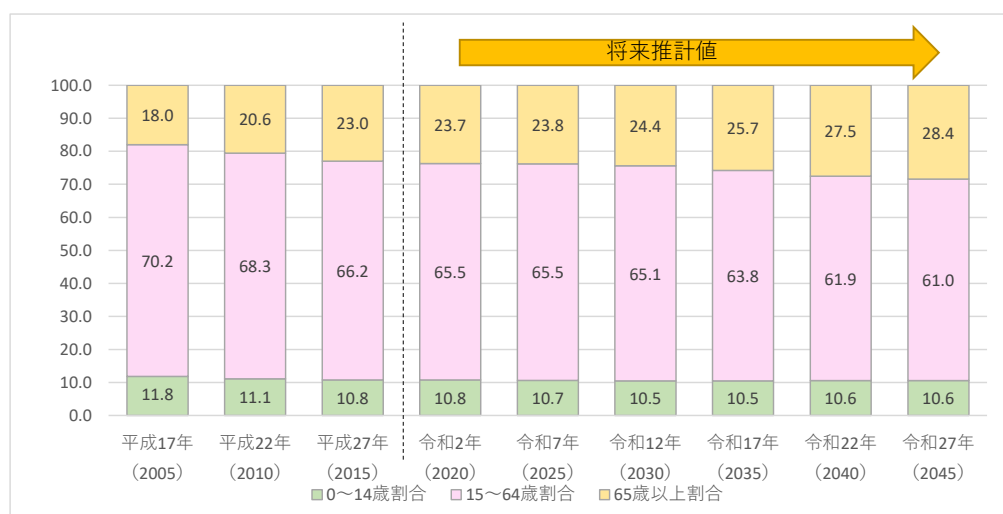
図 蕨市の人口総数の推計



資料：国勢調査、蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

日本の地域別将来推計人口〔平成30(2018)年推計〕（国立社会保障・人口問題研究所）

図 蕨市の年齢3区分別人口割合の推移



資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口〔平成30(2018)年推計〕

（国立社会保障・人口問題研究所）

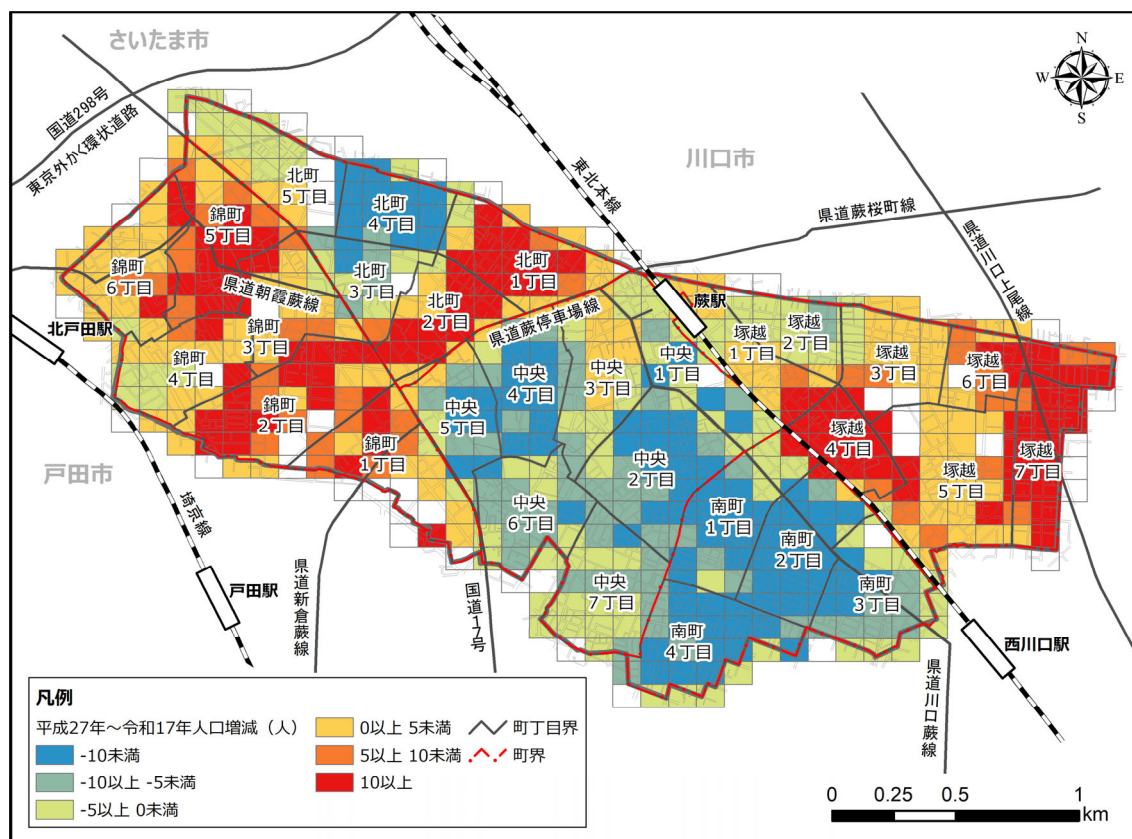
※将来推計値は平成27年の国勢調査の結果から推計しているため、住民基本台帳の人口と異なる。

2. メッシュ別人口推計

本市の将来人口を 100mメッシュ単位に推計し、平成 27 年（2015 年）と令和 17 年（2035 年）を比較すると、塚越や錦町は増加傾向と推測されます。

一方、中央、南町は減少傾向と推測されます。

図 平成 27 年（2015 年）～令和 17 年（2035 年）人口増減



※白色のメッシュは、学校や公園などの人口が含まれない地域

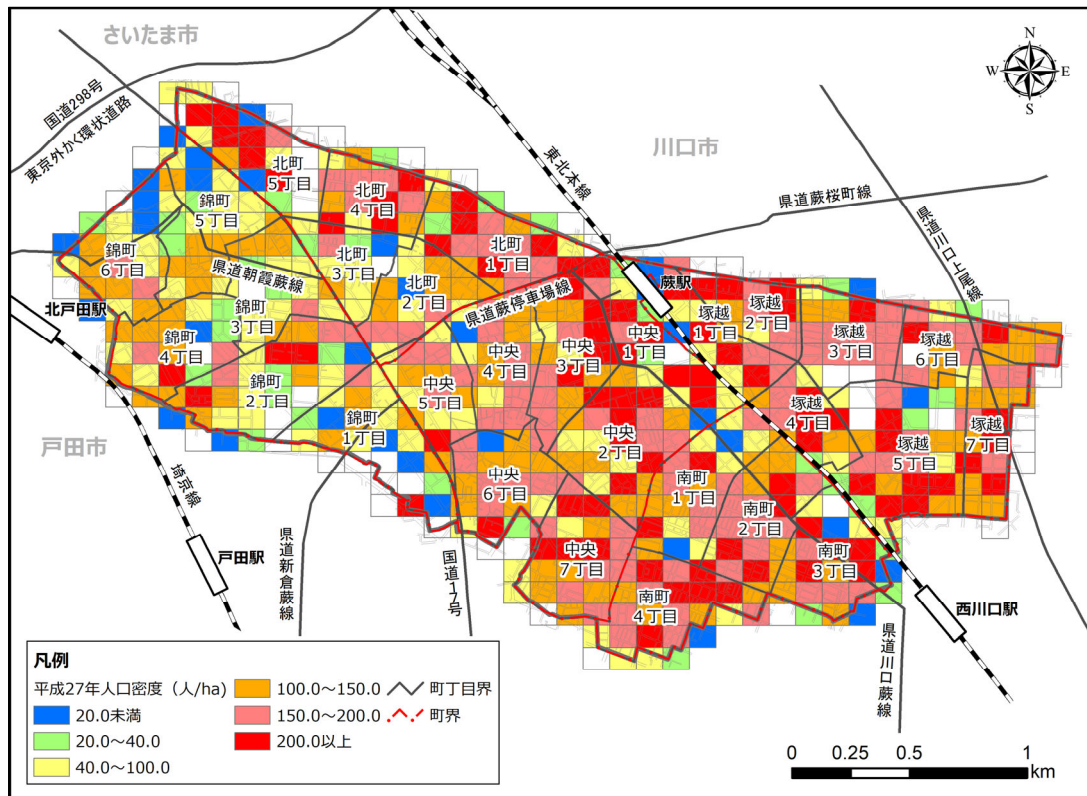
資料：国勢調査、住宅床面積（蔽市家屋図）、都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）

日本の地域別将来推計人口〔平成 30(2018)年推計〕（国立社会保障・人口問題研究所）

■人口の将来見通しからみた都市の特性

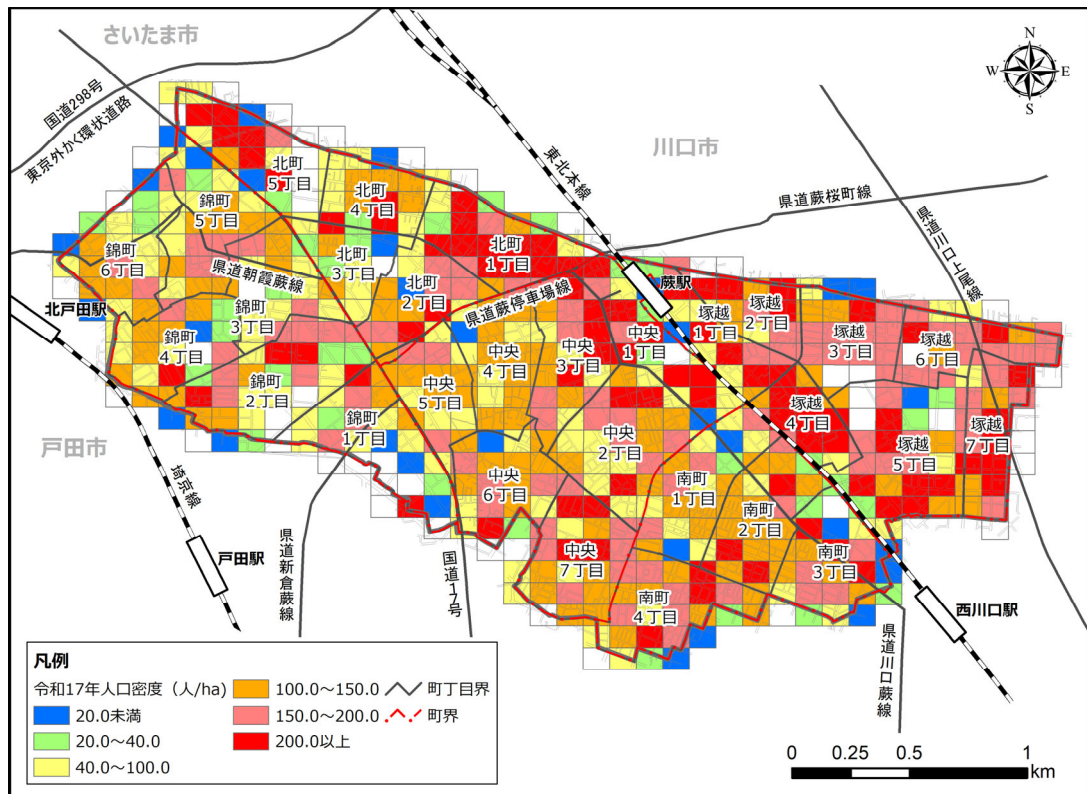
- 令和 7 年（2025 年）をピークに減少に転じることが予測されますが、平成 27 年（2015 年）と比較し、20 年後の令和 17 年（2035 年）は 181 人増となっており、人口規模はほぼ維持されることが予測されます。
- 少子高齢化は今後も引き続き進行することが予測されます。

図 平成 27 年（2015 年）100mメッシュ別人口密度



※町界・町丁目界は平成 27 年国勢調査による

図 令和 17 年（2035 年）100mメッシュ別人口密度（推計値）



※白色のメッシュは、学校や公園などの人口が含まれない地域 ※町界・町丁目界は平成 27 年国勢調査による

資料：国勢調査、住宅床面積（蕨市家屋図）、都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）

日本の地域別将来推計人口〔平成 30(2018)年推計〕（国立社会保障・人口問題研究所）